

日本教育方法学会 第40回記念大会プログラム

《大会日程》

第 一 日 10月 9日・土	8 : 30	受 付 開 始						
	9 : 30							
		課題研究Ⅰ		課題研究Ⅱ		課題研究Ⅲ		課題研究Ⅳ
	11 : 30							
	11 : 40	総 会						
	12 : 30	休 憩						
	13 : 30	自由 研究 1	自由 研究 2	自由 研究 3	自由 研究 4	自由 研究 5	自由 研究 6	自由 研究 7
	15 : 30							
	15 : 50	シ ン ポ ジ ウ ム いま学校で学ぶことの意味を問い直す						
	18 : 20							
	18 : 30							
	20 : 00	会 員 懇 親 会						

第二日 10月10日・日	9 : 00	受 付 開 始							
	9 : 30	自由 研究 8	自由 研究 9	自由 研究 10	自由 研究 11	自由 研究 12	自由 研究 13	自由 研究 14	自由 研究 15
	12 : 00	休 憩							
	13 : 00	課題研究Ⅴ		課題研究Ⅵ		課題研究Ⅶ		課題研究Ⅷ	
	15 : 00								
	15 : 10								
	17 : 00	ラ ウ ン ド テ ー ブ ル							

2004年10月 9 日(土)・10月10日(日)
於 和 光 大 学

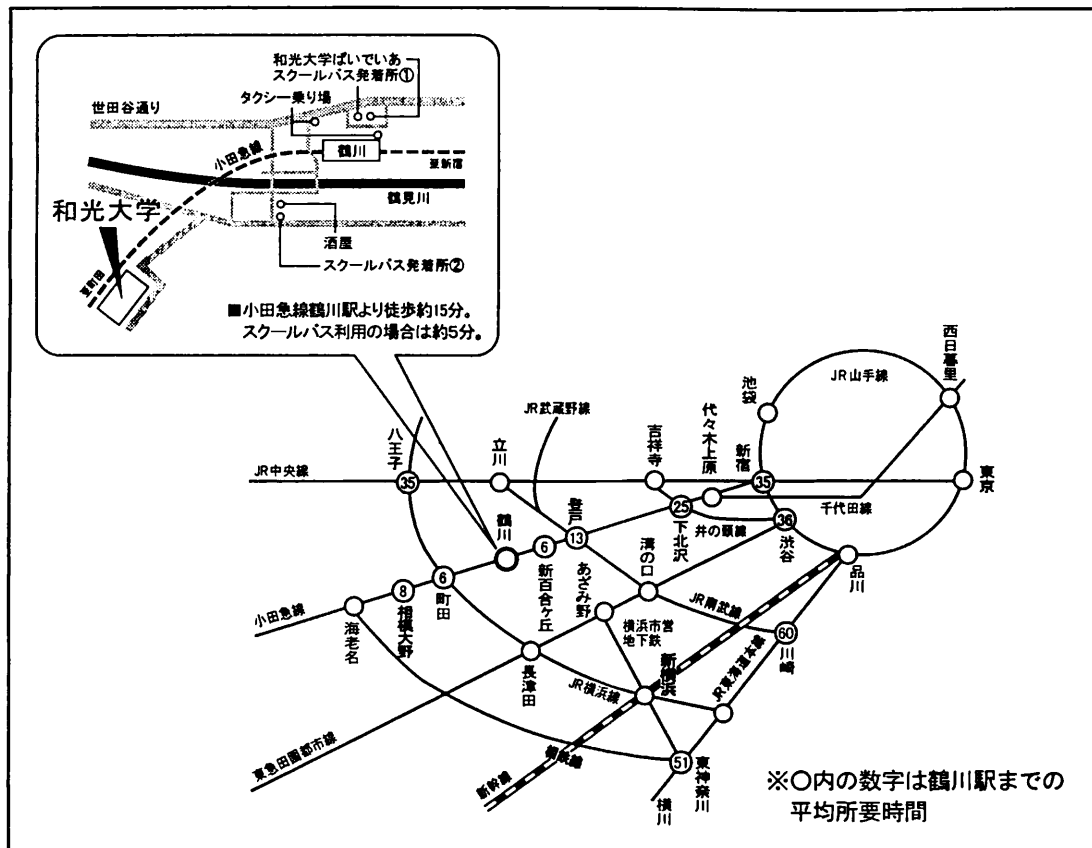
大会参加要領

1. 会場案内：会場は、和光大学です。会場への経路につきましては、次頁をご参照ください。
2. 受付：大会第1日目（10月9日・土）は8：30、第2日目（10月10日・日）は9：00からです。
受付はH棟4階で行います。
 - ・大会参加費（発表要旨集録代を含む）は、一般会員4,000円、学生会員3,000円です。
 - ・当日会員（臨時会員）もこれに準じて受け付けております。
 - ・本年度までの学会費（一般会員8,000円、学生会員6,000円）を未納の方は、あわせてお納めください。
 - ・本年度の学会費を納入された方には、受付にて『教育方法33』をお渡しします。
 - ・会員懇親会の参加受付も行いますので、ふるってご参加ください。会費は4,000円を予定しております。詳しくは、15頁の「インフォメーション」をごらんください。
 - ・受付にてネームプレートを用意しておりますので、お名前をお書きのうえ、おつけください。
3. 昼食：土日ですが、学内の食堂に営業していただきますので、どうぞご利用下さい。
4. 研究発表：発表会場につきましては、4・5頁の「会場配置図」をごらんください。
 - ・自由研究の発表時間は、以下の通りです。
個人研究：発表20分 質疑10分
共同研究：発表30分 質疑10分
(但し、口頭発表者が1名の場合は、個人研究に準じます。)
 - ・自由研究における共同研究発表者の氏名にある○印は口頭発表者を表しています。
5. 会場校連絡先：〒195-8585 東京都町田市金井町2160 和光大学

※大会に関するお問い合わせは、学会事務局（TEL./FAX.:082-424-6744）にお願いいたします。

〈和光大学案内図〉

【会場への主要経路】



和光大学への交通手段については、下記をご参照下さい。

1. 和光大学最寄り駅小田急線鶴川駅へのアクセス

- ・新幹線東京駅 J R 中央線快速にて新宿
- ・新幹線品川駅 J R 山の手線にて新宿
→新宿より小田急線急行にて6つ目新百合ヶ丘駅にて各駅停車に乗り換え2つ目
- ・新幹線新横浜駅 J R 横浜線にて町田駅、町田駅で小田急線新宿方面各駅停車2つ目

2. 小田急線鶴川駅から和光大学（徒歩15分）へのアクセス

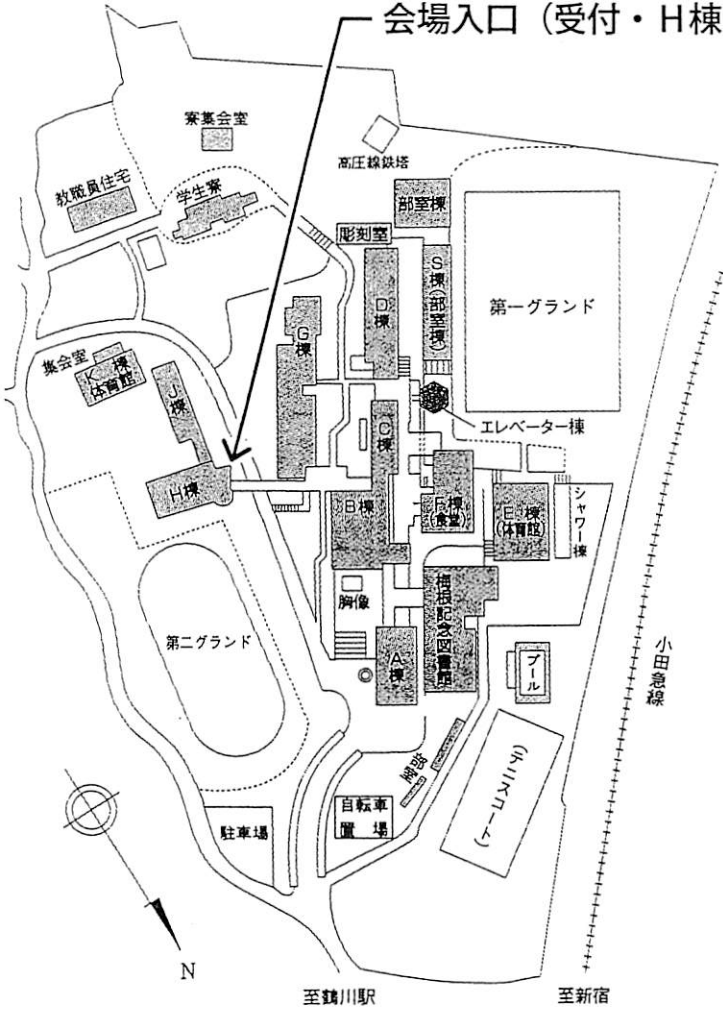
- ・10月9日（土）のみ鶴川駅からスクールバス運行（無料）
→発着所①発（10分）
8:30/10:00/10:20/10:55/12:00/12:30/13:15/14:20/14:55/16:05/16:35/17:20/18:20
→発着所②発（5分）
8:45/8:55/10:20/12:50/17:00/18:05
- ・10月10日（日）鶴川駅から徒歩又はタクシーにて来学下さい

※両日朝、小田急線鶴川駅2ヶ所に案内人が立ち、駅から大学まで案内板で誘導いたします

※駅前から「和光学園」行きの路線バスが出ていますが、和光大学へは行きませんので、乗車しないで下さい

〈会場配置図〉

会場は、J棟3・4FおよびH棟2・3・4Fです



会場配置

- 課題研究Ⅰ・Ⅴ：J 301
課題研究Ⅱ・Ⅵ：H 302
課題研究Ⅲ・Ⅶ：H 301
課題研究Ⅳ・Ⅷ：H 303
総会・シンポジウム：J 401
自由研究 1・8：H 205
自由研究 2・9：H 206
自由研究 3・10：H 207
自由研究 4・11：H 208
自由研究 5・12：H 301
自由研究 6・13：H 303
自由研究 14：H 304
自由研究 7・15：H 305

ラウンドテーブル①：H205

②: H206

③ : H207

會員控室：H 403

お茶などを用意しております。

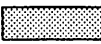
事務局：H404

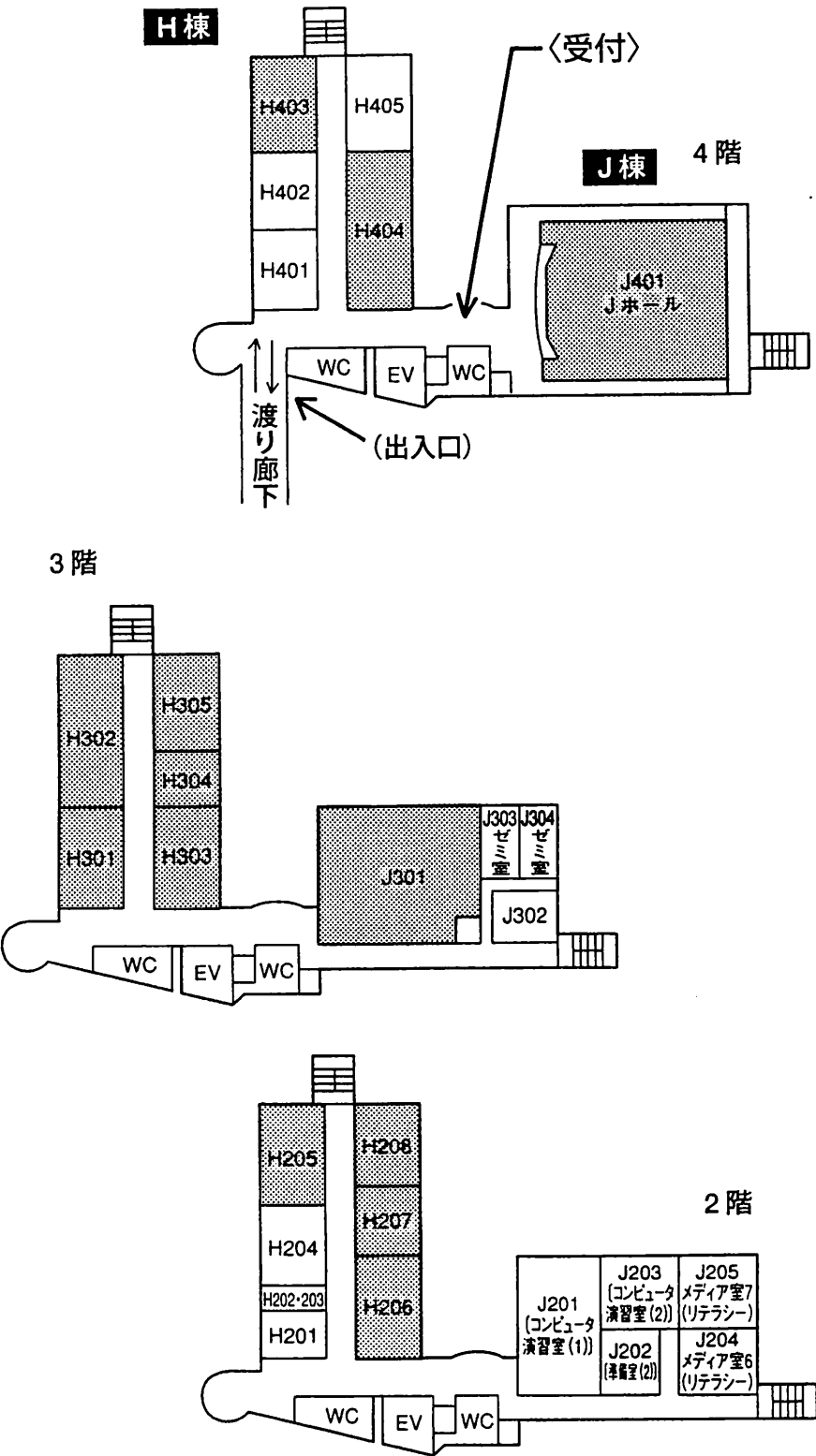
*会員懇親会は、F棟（食堂）にて開催します。

A棟				B棟				C棟				D棟				E棟				F棟				G棟				H棟				I棟				J棟				K棟				L棟				M棟				N棟				O棟				P棟				Q棟				R棟				S棟				T棟				U棟				V棟				W棟				X棟				Y棟				Z棟																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
1F				2F				3F				4F				5F				6F				7F				8F				9F				10F				11F				12F				13F				14F				15F				16F				17F				18F				19F				20F				21F				22F				23F				24F				25F				26F				27F				28F				29F				30F				31F				32F				33F				34F				35F				36F				37F				38F				39F				40F				41F				42F				43F				44F				45F				46F				47F				48F				49F				50F				51F				52F				53F				54F				55F				56F				57F				58F				59F				60F				61F				62F				63F				64F				65F				66F				67F				68F				69F				70F				71F				72F				73F				74F				75F				76F				77F				78F				79F				80F				81F				82F				83F				84F				85F				86F				87F				88F				89F				90F				91F				92F				93F				94F				95F				96F				97F				98F				99F				100F			
1F				2F				3F				4F				5F				6F				7F				8F				9F				10F				11F				12F				13F				14F				15F				16F				17F				18F				19F				20F				21F				22F				23F				24F				25F				26F				27F				28F				29F				30F				31F				32F				33F				34F				35F				36F				37F				38F				39F				40F				41F				42F				43F				44F				45F				46F				47F				48F				49F				50F				51F				52F				53F				54F				55F				56F				57F				58F				59F				60F				61F				62F				63F				64F				65F				66F				67F				68F				69F				70F				71F				72F				73F				74F				75F				76F				77F				78F				79F				80F				81F				82F				83F				84F				85F				86F				87F				88F				89F				90F				91F				92F				93F				94F				95F				96F				97F				98F				99F				100F			
1F				2F				3F				4F				5F				6F				7F				8F				9F				10F				11F				12F				13F				14F				15F				16F				17F				18F				19F				20F				21F				22F				23F				24F				25F				26F				27F				28F				29F				30F				31F				32F				33F				34F				35F				36F				37F				38F				39F				40F				41F				42F				43F				44F				45F				46F				47F				48F				49F				50F				51F				52F				53F				54F				55F				56F				57F				58F				59F				60F				61F				62F				63F				64F				65F				66F				67F				68F				69F				70F				71F				72F				73F				74F				75F				76F				77F				78F				79F				80F				81F				82F				83F				84F				85F				86F				87F				88F				89F				90F				91F				92F				93F				94F				95F				96F				97F				98F				99F				100F			
1F				2F				3F				4F				5F				6F				7F				8F				9F				10F				11F				12F				13F				14F				15F				16F				17F																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															

各棟のフロアは図のように対応し、車イスでも移動できるようバリアフリーになっています。

講義棟（H・J棟）教室配置図

 が使用教室



10月9日(土) 9:30~11:30

課題研究Ⅰ

「学習共同体」論の現在

(J301)

コーディネーター

司会者

高田 清(福岡教育大学)

佐藤 学(東京大学)

松下佳代(京都大学)

高田 清(福岡教育大学)

提案者

庄井良信(北海道教育大学)

物語共同体と実践共同体

—ヴィゴツキーの構想的認識論

(conceptive epistemology)と授業改革— ……29

高木 光太郎(東京学芸大学)

実践共同体間の移動とアイデンティティ形成 ……31

松下佳代(京都大学)

学習共同体の生成と個の学び ……33

(設定趣旨)

「学びの共同体」「実践共同体」「ディスコース・コミュニティ」など、表現やその意味内容にバリエーションをみせつつ、「学習共同体」論は学習論・授業論・カリキュラム論・学校論などに大きな影響を与えてきた。本課題研究では、こうした「学習共同体」論の系譜と様相を概観しながら、現在の論点や課題を明らかにしていく。

今回はとくに、実践共同体と物語共同体の関係、共同体間の移動（あるいは越境）とアイデンティティ形成、共同体の変化と個人の学びの関係、学習共同体のデザインなどを話題にする予定である。臨床教育学や発達心理学と教育方法学とを交差させた学際的な議論の場としたい。

10月9日(土) 9:30~11:30

課題研究Ⅱ

教育課程・教育方法における
ジェンダー／セクシュアリティの政治

(H302)

コーディネーター

子安 潤(愛知教育大学)
鶴田 敦子(聖心女子大学)

司会者

船越 勝(和歌山大学)
子安 潤(愛知教育大学)

提案者

鶴田 敦子(聖心女子大学)	家庭科におけるジェンダー・ポリティクスと克服 の課題35
浅井 春夫(立教大学)	子どもの性的発達と性教育のサードステージ ー性教育バッシングの現実にふれながらー37
山田 綾(愛知教育大学)	ジェンダー／セクシュアリティの自由な形成とは? ...39

指定討論者

吉田 和子(岐阜大学)

(設定趣旨)

学校は、特定のジェンダー／セクシュアリティを構築する場として機能してきた。それは、教育の目標や教科の内容として顕在化されている場合もあれば、ミクロポリティクスとして隠蔽されている場合もある。この機能の仕組みを、現在の性教育・家庭科・教育基本法の改訂をめぐる議論の動向に触れながら検討し、解明したい。さらに、子ども・青年のジェンダー／セクシュアリティの自由な形成に資する教育課程・教育方法の改革方向を探りたい。

10月9日(土) 9:30~11:30

課題研究Ⅲ

理科教育の学力と授業づくり

(H301)

コーディネーター

梅原利夫(和光大学)
三石初雄(東京学芸大学)

司会者

梅原利夫(和光大学)

提案者

生源寺孝浩(元・岐阜県内小学校)・園田洋一(和光鶴川小学校)

小学校高学年で教えるべき「力学の基礎」とは何か
—子どもたちは何をどこまで受け止められるのか— …41

三石初雄(東京学芸大学) 「原体験」と「とりたてての授業」を視野に入れた理科の授業づくり ……43

指定討論者

寺岡英男(福井大学)

(設定趣旨)

学校において自然に関する教育は、主として教科「理科」で担っている。自然に関する教育は、自然科学で得られた知見や視点を十分に駆使しながら、体験や実験によって自然に働きかけ、自然そのものを豊かに把握する中で、それぞれの自然観を形成していくのに寄与するものであろう。

理科教育の目的や内容や方法を、授業という学習の場を通して検討してみたい。そのさいに、和光鶴川小学校の子どもたちを対象に、その理科専科の会員と、これまで岐阜で小学校教育に携わってきた会員との双方が、それぞれが共通の分野の単元教材をもとに、6年生の授業実践を行い(大会前日、10月8日(金)3,4時間目)、その結果を持ち寄りながら、課題研究の場で提案していただく。

教材に反映した教育内容の吟味、子どもの発言に見られる認識の発展過程、教師の働きかけの分析、形成されたであろう学力、授業の流れの計画などが話題になり、活発な討論がなされると期待される。

10月9日(土) 9:30~11:30

課題研究Ⅳ

外国語（英語）教育の基礎・基本を考える
—言語（音声と文字，語と文）を中心に—

(H303)

コーディネーター

阿 原 成 光 (和 光 大 学)
豊 田 ひさき (名 古 屋 大 学)

司会者

梅 本 裕 (京 都 橘 女 子 大 学)
柏 村 みね子 (法政大学等・非常勤)

提案者

阿 原 成 光 (和 光 大 学) 外国語（英語）教育の基礎・基本と到達度評価
英語が苦手な学生のために「脱劣等感」を
目指した「和光大学基礎英語」の実践から……44
北 出 和 平 (和 光 中 学 校) 外国語教育の基礎・基本 習得の過程 ……45

指定討論者

金 谷 憲 (東 京 学 芸 大 学)
西 野 孝 子 (法 政 大 学)

(設定趣旨)

共生の時代21世紀に、平和を愛する地球市民として生きるために役立つ外国語（英語）教育の基礎・基本とは何か。「英語が使える日本人」育成のための行動指針が発表され、英語教育の改革が叫ばれている今日、学校現場で行われている具体的な英語の授業実践を提示しながら、子どもたちが意欲的に学び、豊かで確かな学力を身につけ、「生きる力」を育むことに役立つような英語の授業研究・授業改革は如何にあるべきか、という問題をめぐって、議論を深めたい。具体的には、和光中学校・大学の授業実践に基づいて、英語教育の〔目標⇄内容⇄方法⇄評価〕にわたって議論し、他教科にも汎用可能な若干の指針を打ち出すことを目指す。

自由研究 1

(H205)

司会者 小笠原 喜 康(日 本 大 学)
折 出 健 二(愛 知 教 育 大 学)

- 13:30 ① 教師(保育者)は自らの(保育)実践をどのように位置づけるのか
—「生活教育」を実践した教師(保育者)のライフストーリーを通して— …47
田 甫 綾 野(日本女子大学大学院)
- 14:00 ② 遊びを促す“もの”としての環境の意味(役割)
—幼児の発達に及ぼす影響— …48
塚 本 美知子(聖徳大学短期大学部)
- 14:30 ③ 保護者・教師の意識の変遷について
—教師が親に語ることの大切さを、いま一度考える— …49
井 上 正 允(筑波大学附属駒場高等学校)
- 15:00 ④ Integrated e-Learning について—教師への意識調査を踏まえて— …50
○二 宮 利 江(茨 城 大 学)
本 田 敏 明(茨 城 大 学)

自由研究 2

(H206)

司会者 阿 部 好 策(新 潟 大 学)
山 口 満(びわこ成蹊スポーツ大学)

- 13:30 ① アメリカにおける情意目標論の展開
—態度としての「傾向性」概念に焦点を当てて— …51
石 井 英 真(京 都 大 学 大 学 院)
- 14:00 ② コア・カリキュラムにおける「基礎」「基本」
—「能力表」「要素表」を中心に— …52
金 馬 国 晴(横 浜 国 立 大 学)
- 14:30 ③ 学習評価における「通知表」の機能 …53
細 川 和 仁(大 阪 大 学)
- 15:00 ④ 知識経済下における学校カリキュラムに関する一考察
—職場のリテラシーの問題を中心として— …54
中 野 和 光(広 島 大 学)

10月9日(土) 13:30~15:30

自由研究3

(H207)

司会者 西岡 けいこ (香川大学)
山田 昇 (共愛学園前橋国際大学)

- 13:30 ① 木下竹次の教育方法の基底―「肚腰錬成」を中心に―55
齋藤 智哉 (東京大学大学院)
- 14:00 ② 1920年代日本における山本宣治の性教育論
―「人生生物学」講義に着目して―56
柴本 枝美 (京都大学大学院)
- 14:30 ③ 学ぶ構えをつくる教育―中村春二の教育思想と凝念法―57
小室 弘毅 (立教大学非常勤)
- 15:00 ④ スウェーデン王国における性教育の現状に関する一考察58
佐藤 年明 (三重大学)

自由研究4

(H208)

司会者 影山 清四郎 (横浜国立大学)
小林 義明 (大東文化大学・非常勤)

- 13:30 ① 環境教育をめぐる新動向
「持続可能な発展のための教育」を問う59
若林 身歌 (京都大学大学院)
- 14:00 ② 概念地図法を活用した環境単元における
認識及び科学的な概念形成に関する一考察60
鈴木 徹 (中央区中央小学校)
- 14:30 ③ 近世日本の魚附林はなぜ始まったのか?
―海と森との物質循環を軸にした環境教育プランの開発のために―61
若菜 博 (室蘭工業大学)
- 15:00 ④ 北海道と大分県を中心とした魚附林の歴史と現況に関する環境・
総合学習教材の開発 (3)
―北海道における魚附林保護・漁業関係者の植林活動に
かかわる教育実践の分析―62
前田 賢次 (北海道教育大学岩見沢校)

10月9日(土) 13:30~15:30

自由研究5

(H301)

司会者 水内 宏(千葉大学)
山下 政俊(島根大学)

- 13:30 ① 現代ドイツ教授学思想に関する一考察
—ドウンカー (Duncker, L.) の指さし論を中心に—63
渡邊 眞依子(広島大学大学院)
- 14:00 ② New School プロジェクトにおける
「拡張的学習」生成過程に関する活動理論研究64
平野 拓朗(関西大学大学院)
- 14:30 ③ イギリスにおけるホール・スクール・アプローチの検討
—「分離」との関係に焦点を当てて—65
窪田 知子(京都大学大学院)
- 15:00 ④ ヴァルドルフ教育学批判(1) —「輪廻とカルマ論」—66
土屋 文明(日本大学)

自由研究6

(H303)

司会者 須田 勝彦(北海道大学)
豊田 ひさき(名古屋大学)

- 13:30 ① 旧制中学校における生徒の規律維持の組織—大正期を中心に—67
市山 雅美(湘南工科大学)
- 14:00 ② 生活綴方教育実践における人格機能の表出と教育の契機
—小砂丘忠義の綴方教育論を手がかりとして—68
神 郁雄(東京都立学校)
- 14:30 ③ 近代日本の初等数学教育における慣習と学問69
佐藤 英二(明治大学)
- 15:00 ④ 五大学共同研究の展開70
狩野 浩二(鹿児島大学)

10月9日(土) 13:30~15:30

自由研究7

(H305)

司会者 三橋 謙一郎(徳島文理大学)
宮坂 琇子(東海大学)

- 13:30 ① 「生徒－教師関係」におけるコミュニケーション構造の分析1
－中学校教師を対象とした面接調査を通して－71
高橋 早苗(創価大学大学院)
- 14:00 ② ドイツ統一後のクリングベルク教授学の展開72
吉田 成章(広島大学大学院)
- 14:30 ③ ヴィゴツキーの教育実践概念－介入としての教育－73
島田 希(関西大学大学院)
- 15:00 ④ 仲間の形成と遊びの「場」の役割(2)74
近内 愛子(聖徳大学短期大学部)

10月9日(土) 15:50~18:20

シンポジウム

いま学校で学ぶことの意味を問い直す

(J401)

コーディネーター

市川 博(帝京大学)
奥平 康照(和光大学)
藤田 昌士(元・立教大学)

司会者

久田 敏彦(大阪教育大学)
藤田 昌士(元・立教大学)

提案者

乾 彰夫(東京都立大学) 〈学校から仕事へ〉の移行過程変容と学校の意味 …75
佐藤 洋作(NPO法人「文化学習協同ネットワーク」代表)

子ども・若者が語り始めるとき、学び始めるとき
—学校外の居場所から— ……………77

清水 毅四郎(滋賀大学) 授業実践の立場から問い直す ……………79

(設定趣旨)

いま「学校で学ぶことの意味」を求めて苦しんでいるのは、子どもたち自身である。そして次に苦勞しているのは、学習意欲をなくしてしまっているかのように見える子どもたちを前にして、学習を組織しなければならない教師たちである。学びの場は学校だけではない。学校での学びは、人間の学びの過程の一部である。そして学校学習の意味は社会的かつ歴史的である。人間の全生活と全学習の中で、学校での学びは、いまどういう位置にあり、どうなっているのか、論議したい。

インフォメーション

●会員総会

日 時 : 第1日(10月9日(土)) 11:40～12:30

会 場 : J401

主な議題 : 会務報告

2003年度決算

2005年度予算案

次期大会校

昼食・休憩前ですが、ぜひとも多数ご参集ください。

●会員懇親会

日 時 : 第1日(10月9日(土)) 18:30～20:00

会 場 : 食堂(F棟)

会 費 : 4,000円(予定)

会員相互の親睦をはかるため、懇親会を開きます。多数の会員のみなさまの参加をお願いいたします。

●書籍販売について

学会事務局では、受付にて学会機関誌『教育方法』、研究紀要『教育方法学研究』の最新刊およびバックナンバーを、会員割引価格で販売いたします。この機会にぜひお求めください。

また、本大会の『発表要旨集録』を別途希望される方には、1冊800円にて頒布いたします。

なお、『教育方法』最新刊(第33巻)は、本年度の学会費を納入された方には、受付の際にお渡しいたします。(大会以降に学会費を納入された方には、随時お手元に郵送いたしております。)

10月10日(日) 9:30~12:00

自由研究 8

(H205)

司会者 藤田輝夫(聖徳大学)
諸岡康哉(金沢大学)

- 9:30 ① 近代以降の日本幼児教育方法論史における
子育ての知恵に基づく理論構築の動向に関する研究81
○伊勢 慎(岡山大学大学院)
横松友義(岡山大学)
- 10:00 ② 保育施設の遊具と玩具 手づくり遊具・玩具の効果の一考察82
寺島明子(聖徳大学大学院)
- 10:30 ③ 言語的・文化的マイノリティの子どもに対する教師の対処
ーエンパワーメントのための働きかけを中心にー83
金井香里(東京大学大学院)
- 11:00 ④ 役割演技遊びにおける教師介入の方法について84
佐野美奈(佐野短期大学)
- 11:30 ⑤ なぜK児の遊びは続いたか
ー子どもの自立的行為が完遂する場の構造とは何かー85
根津明子(東横学園女子短期大学)

自由研究 9

(H206)

司会者 臼井嘉一(福島大学)
河原尚武(鹿児島大学)

- 9:30 ① G. ウィギンズにおけるカリキュラム理論の成立過程86
遠藤貴広(京都大学大学院)
- 10:00 ② 「総合的な学習の時間」における教師の評価観転換の必要性87
小野沢美明子(日本大学大学院)
- 10:30 ③ 市民教育のカリキュラム開発
ー総合的な学習の時間・「福祉と共生」を通してー88
森 照代(作新学院高等学校)
- 11:00 ④ 総合的な学習に対する教師の授業評価
ー多人数グループによる授業リフレクションを中心としてー89
下田好行(国立教育政策研究所)
- 11:30 ⑤ プロセスを評価する
ーパフォーマンス・アセスメントの測定論的意義ー90
鈴木京子(日本大学)

10月10日(日) 9:30~12:00

自由研究10

(H207)

司会者 井谷善則(大阪教育大学)
林義樹(横浜国立大学)

- 9:30 ① オストメイトの患者教育に対する看護教育方法の研究91
芥川清香(福岡教育大学大学院)
- 10:00 ② 大学教養教育における自己形成
—正統的周辺参加論の拡張に向けて—92
杉原真晃(京都大学大学院)
- 10:30 ③ 知的障害のある人の高等教育について
—オープン・カレッジの実践から—93
岩永力男(大阪大学)
- 11:00 ④ 企業と連携した授業づくりにおける教育方法のあり方
—NPO法人企業教育研究会における事例に関して—94
○藤川大祐(千葉大学)
○塩田真吾(千葉大学大学院)

自由研究11

(H208)

司会者 小川博久(日本女子大学)
三上勝夫(北海道教育大学)

- 9:30 ① 批判的リテラシー形成における「対話」の特徴95
竹川慎哉(名古屋大学大学院)
- 10:00 ② アメリカ合衆国のリーディング・リカバリー・プログラムについて
—リテラシー形成における言語スキルの指導に着目して—96
谷川とみ子(日本学術振興会特別研究員)
- 10:30 ③ ヴィゴツキー、ルリヤの心理・言語理論に関する一考察
—リテラシーと方法論をめぐって—97
森岡修一(大妻女子大学)
- 11:00 ④ 文学教材の授業で、表象発達の際、読み手が証拠として使う
生活的概念系の言葉の意味をどのように発達させるか
—発達の最近接領域における論証過程の解明①—98
○宮坂義彦(元・三重大大学)
○石井俊樹(名古屋市大森小学校)
○森川拓也(三重県青山小学校)

10月10日(日) 9:30~12:00

自由研究12

(H301)

司会者 本田 敏 明 (茨 城 大 学)
牧 戸 章 (滋 賀 大 学)

- 9:30 ① 「協力」と「共同」の学校を目指してー「スピーチ活動」10年の実践を軸にー …99
中 妻 雅 彦 (東京学芸大学大学院)
- 10:30 ③ メディア・ディスコースの分析方法に関する研究
ー Norman Fairclough を中心にー ……100
小 柳 和喜雄 (奈 良 教 育 大 学)
- 11:00 ④ 教育実践における「交渉的読み」の試みー小学校における実践例からー ……101
○峰 司 郎 (福岡県勢門小学校)
山 田 育 男

自由研究13

(H303)

司会者 天 野 正 輝 (京 都 大 学)
小 野 擴 男 (岡 山 大 学)

- 9:30 ① アメリカにおけるカリキュラムマネジメント論の研究
ー サービスラーニングを切り口にー ……102
倉 本 哲 男 (九 州 大 学 大 学 院)
- 10:00 ② 児童の自己評価能力の育成方法 ……103
廣 瀬 真 琴 (大阪市立大学大学院)
- 10:30 ③ 特別支援教育における総合的な学習の時間のカリキュラムデザインに関する研究
ー 情報教育の視点からー ……104
太 田 容 次 (滋賀大学教育学部附属養護学校)
- 11:00 ④ カリキュラムコーディネーターとしての教師の力量形成に関する一考察 ……105
齋 藤 義 雄 (栃木県七合小学校)
- 11:30 ⑤ 中等教育段階における総合学習実践研究の課題
ー 奈良女子大学附属中等教育学校を事例としてー ……106
宇佐見 香 代 (埼 玉 大 学)

10月10日(日) 9:30~12:00

自由研究14

(H304)

司会者 岩 垣 攝(千葉大学)
渡 邊 光 雄(筑波大学)

- 9:30 ① 実践イメージに関する研究動向と課題107
深 見 俊 崇(大阪市立大学大学院)
- 10:00 ② 教員養成教育における体験学習プログラムの構築108
竹 内 元(宮崎大学)
- 10:30 ③ 放課後学習チューター事業における教職志望学生の学びの支援とプロセス(2) ...109
○姫 野 完 治(秋田大学)
小 松 正 武(秋田大学)
浦 野 弘(秋田大学)
- 11:00 ④ 大学生における『内包量』としての「物質密度」理解の調査、
及びその学習方略への提言110
斎 藤 裕(県立新潟女子短期大学)
- 11:30 ⑤ 授業研究の課題の整理111
加 納 幹 雄(岐阜県立各務原高等学校)

自由研究15

(H305)

司会者 庄 司 他人男(福島学院大学)
日 比 裕(東海学園大学)

- 9:30 ① 戦後ドイツにおけるグループ授業の歴史的展開に関する一考察112
吉 田 茂 孝(広島大学大学院)
- 10:00 ② 『R.R.方式』と生徒の思考過程に配慮した教師の話し方の研究113
落 合 一 浩(筑波大学大学院)
- 10:30 ③ 「学びの共同体」づくりと教師の指導性に関する一考察(4)114
三 橋 謙一郎(徳島文理大学)
- 11:00 ④ 教師の専門性と学級の再構築115
○麻 生 信 子(筑紫女学園大学非常勤)
○山 下 ヒロ子(元・福岡県杷木小学校)

10月10日(日) 13:00~15:00

課題研究 V

学力評価の実態と改善方策
—子どもの成長・発達に役立つ評価とは何か—

(J301)

コーディネーター

小 泉 祥 一 (東 北 大 学)
田 中 耕 治 (京 都 大 学)

司会者

市 川 博 (帝 京 大 学)
田 中 耕 治 (京 都 大 学)

提案者

堀 哲 夫 (山 梨 大 学) 子どもの資質・能力を育成する教育評価をめざして
—OPP を利用した評価を中心にして— ……116
川 合 春 路 (大 阪 樟 蔭 女 子 大 学) カルテを基盤に持つ評価と指導の体制を ……117
西 岡 加 名 恵 (京 都 大 学) ポートフォリオを活用したカリキュラム評価の可能性 ……119
小 泉 祥 一 (東 北 大 学) 教育実践の創造性を尊重したアカウントビリティ
としての評価
—カリキュラム経営の視点から— ……120

指定討論者

中 野 和 光 (広 島 大 学)
寺 西 和 子 (愛 知 教 育 大 学)

(設定趣旨)

新指導要録に基づく新しい学力評価システムがスタートし、丸2年が経った。この間、新しい評価システムについては推進論と批判論がさまざまな立場から展開されてきたが、各学校現場では、評価方法に関するさまざまな工夫と努力が試みられているところである。

一方、学校では、子どもの学力評価をはじめ、授業評価を含む教員評価、カリキュラム評価を含む学校評価等、いわゆる「評価」の時代を迎え、改めて子どもや教育をどのように理解し、把握するかが問われている。そこでは、評価方法が一人歩きし、評価栄えて、教育減ぶ、ということがないように格段の注意が求められている。

このような時、新しい指導要録の下での学力評価の実態はどのようなものであるか、現在、学校現場で行われている学力評価の方法でいいのか、また、そのような実態を踏まえて、子どもの成長・発達に役立つ評価はどのようなものであればいいのか、そのあり方を検討する。さらに、学校での学力評価のあり方をサポートするためには、どのような条件や体制、環境を整備しなければならないのか、などについて検討することは、きわめて意味のあることである。

そこで、本課題研究では、現在の学力評価の実態と改善方策について、カルテやポートフォリオによる評価方法論、および教科教育論、教育経営論の観点から総合的に検討することにした。

10月10日(日) 13:00～15:00

課題研究 VI

特別なニーズを持つ子どもと教育実践の課題
ーインクルージョン教育の教育方法学的検討ー

(H302)

コーディネーター

司会者

深澤 広明(広島大学)

上野 ひろ美(奈良教育大学)

湯浅 恭正(香川大学)

深澤 広明(広島大学)

提案者

新井 英靖(茨城大学) 英国インクルージョン教育の現状と教育の多様化 …122

宇貝 博(新潟市坂井東小学校) 特別なニーズを持つ子どもの指導と集団づくり …124

湯浅 恭正(香川大学) 特別なニーズを持つ子どもに開かれた生活の創造 …126

(設定趣旨)

「インクルージョン教育 (inclusive education)」の提唱や「特別支援教育」への転換の流れの中で、特別なニーズを持つ子どもの教育実践をどう構想し、展開するかが問われている。通常学校・学級における特別なニーズを持つ子どもへの対応については、この間、各地域や各学校・学級で取り組みが進められてきている。また、障害等に即した対応のマニュアルも多数示されてきている。さらに、通常学校・学級での処遇の実態も報告されてきた。しかし、「特別支援教育」の制度的な不安定さや曖昧さにも起因して、通常学校・学級での教育実践は、その模索が続けられている状況である。

本課題研究では、教育方法学研究において、特別なニーズを持つ子どもの教育実践論・インクルージョン教育論に何が求められるかを明らかにする。○国際的に試みられているインクルージョン教育論の教育実践としての展開、○特別なニーズを持つ子どもへの教師の指導と集団づくり、○特別なニーズを持つ子どもの権利と共同の教育などの視点から、学校におけるインクルージョンをめざす教育実践の成立とは何かについて、教育方法学的に検討する。

特別なニーズ教育の対象は多岐に渡る。その対応では、いわゆる学力論や発達支援論など視野を広げなくてはならない。それらの全てを取りあげることはできないが、このテーマにかかわる本学会での研究の進展を問いかける課題研究としたい。

課 題 研 究 VII

教師の力量形成と教育方法学研究
—教師研究と授業研究の接点を求めて—

(H301)

コーディネーター

森 脇 健 夫 (三 重 大 学)
日 比 裕 (東 海 学 園 大 学)

司会者

森 脇 健 夫 (三 重 大 学)
二 杉 孝 司 (金 城 学 院 大 学)

提案者

藤 原 顕 (兵 庫 県 立 大 学)	授業研究へのライフヒストリー・アプローチ …128
岩 崎 紀 子 (福 島 大 学)	教師は〈こども〉から何をよみとったか —〈授業スタイル〉形成にかかわる教師のライフ ヒストリーの事例から— ……………130
山 崎 準 二 (静 岡 大 学)	ライフコース・アプローチを乗り越えるライフヒスト リー・アプローチとはどのようなものなのか? …132
的 場 正 美 (名 古 屋 大 学)	総合授業記録にもとづく参加型授業研究会におい て培われる授業をみる力、構想する力 ………134

(設定趣旨)

教師の力量形成は教師研究の一環として追究されてきた重要な課題であるが、そうした研究が教育方法学に対してどのような貢献ができるか、本課題研究で究明したい。具体的には、広い意味での授業経験（自らの授業経験だけでなく、授業参観や実践記録からの学び、教育現場等での協同的な授業研究会への参加等）が教師の力量形成にどのような意味を持っているのか、具体的事例にもとづいて考究する。その際、本研究課題では、とくに「授業スタイル」（「子どもの理解、授業の目的や教育内容の想定、教材の準備や提示、学習活動の組織などを、どのように遂行していくか、その個性的な様態」＝本提案者・藤原顕）に注目されよう。すなわち授業経験が授業スタイルの形成にどのような影響をあたえるかを中心的な視点にしながら、以下のような観点から本研究課題が検討されると期待される。

- 1) 授業スタイルへのライフヒストリー的アプローチ
- 2) ライフヒストリーと授業研究の関連
- 3) 教育現場における協同的集団的な授業研究の授業スタイルへの影響

10月10日(日) 13:00~15:00

課題研究Ⅷ

国語教育の基礎・基本とは何か
ー読み方指導を中心にしてー

(H303)

コーディネーター

小林 義明 (大東文化大学・非常勤)
柴田 義松 (東京大学名誉教授)

司会者

加藤 郁夫 (大阪府立柏原東高校)
木内 剛 (成蹊大学)

提案者

阿部 昇 (秋田大学) 教科内容としての「基礎・基本」を子どもたちに
身につけさせる
ー読む力についての教科内容の解明と実践ー …136
高橋 智佳子 (和光中学校) 筋道を立てて考え表現する力を授業の中でどう育
てていくか ……………138

指定討論者

池田 久美子 (信州豊南短期大学)
鶴田 清司 (都留文科大学)

(設定趣旨)

国語教育の基礎・基本とは何かは、学習指導要領に示された抽象的・一般的な目標や各学年の同じように抽象的な目標や内容だけでは分からない。到達目標が定かではないのである。本課題研究は、授業研究を通して国民共通の基礎教養としてどのような国語の力、特に読み方の能力を育てる必要があるのかを具体的に明らかにしようとするものである。

和光中学校でのこれまでの国語教育研究および今回特別に行う公開授業研究(秋田大学の阿部昇と和光中学校の高橋智佳子)に基づいて上述のテーマについて提案を行い、論議を深めることとしたい。

10月10日(日) 15:10~17:00

ラウンドテーブル①

和光学園の教育・学校づくりと私のあゆみ
—丸木政臣先生に聞く—

(H205)

コーディネーター

司会者

奥平康照(和光大学)

奥平康照(和光大学)

梅原利夫(和光大学)

(設定趣旨)

大会校である和光大学は、その母体である学校法人和光学園内の一つの学校である。和光学園は、1933年に和光小学校が創設され、戦後はユネスコ指定の実験学校となったり、日本生活教育連盟と密接な関係を保って実践をつくるなど、ユニークな教育を行ってきて今日に至っている。

丸木政臣先生は、学園において教師としてのあゆみを始められ、やがては校長にそして現在は、学園長として幼稚園から高校までの経営と教育の責任を担っておられる。それらの活躍がひろく認められ、ペスタロッチー教育賞も受賞された。

今も活躍されている丸木先生をお招きし、これまでのあゆみをお聞きしながら、これからの教育のあり方を一緒に考えたい。

ラウンドテーブル②

授業研究の方法論を問う②

ー文学教材の授業で、何をどのように教え、その有効性をどのように検証するかー

(H206)

コーディネーター

白 銀 一 彦 (前・東京女子大学)

宮 坂 義 彦 (元・三重大大学)

司会者

柴 田 義 松 (東京大学名誉教授)

三 上 勝 夫 (北海道教育大学)

問題提起者

加 藤 郁 夫 (大阪府立柏原東高校・大阪樟蔭女子大学)

鶴 田 清 司 (都 留 文 科 大 学)

宮 坂 義 彦 (元・三重大大学)

(設定趣旨)

1. ここでは次の二つの問題について論議したいと願っている。
2. 各分野で授業研究は行き詰っている。授業の方法についての新しい提言は少なからずあるのだが、そこから有効な授業方法を開発する研究が停滞しているのである。
3. 私見では、停滞の主たる原因は「仮説」の有効性を検証する方法が確立していないことにある。
現在行われている授業研究の方法はこのままでよいのだろうか。有効性を追求する授業方法の研究にとって、実証ぬきの授業方法の開発研究が常態化しているのは危機的な状態ではないかと考える。教育方法学を発展させるためには、有効な授業方法を開発するための有効な研究方法の開発が急務である。さしあたって「仮説」を実証するのにどのようなやり方があるのかを模索する必要があるのではないかと、これが第一の問題である。
4. 方法論研究の対象を次のように想定するならば、有効な授業方法の開発と有効な研究方法の開発は相互に密接な関係を持っていることが分かる。したがって後者(④)の開発を前者(①～③)から切り離して行うことはできない。(①～③は④の検証に対する仮説部分である)

①文学教材の授業で、(教材)

②子どもにどのような力をつけるために、(授業の目的)

③何を、どのように教えるか。(授業の方法)

④その方法の効果をどのように検証するか。(検証)

①から③までの諸契機にも方法論的に未解明な問題が含まれている。一見自明のようにみえるものをあらためて問い直し、批判的に検討する必要があるのではないかと。教材抜きの学習指導方法研究、子どもにどのような力をつけるかという目的があいまいな学習指導法研究など吟味を要する問題がある。これは検証問題同様重要な課題である。①から③までの諸契機を問い直すことが、有効性の検証問題にも少なからぬ影響を及ぼす可能性があるからである。これが第二の問題である。

5. 上記の二つの問題を解決する方法について、まず提案者が、それぞれの関心にもとづいて、具体的な構想を述べ、ついで参加者を交え論議し合いたいと願っている。

10月10日(日) 15:10~17:00

ラウンドテーブル③

意味生成としての教育研究
—なぜ教育方法学会に行くの?—

(H207)

司会者

西岡 けいこ (香川大学)

提案者

瀬戸 郁子 (香川大学)

赤木 則子 (岡山県玉野市立荘内小学校)

小川 博久 (日本女子大学)

新井 孝昭 (筑波技術短期大学)

(設定趣旨)

語り、身体、学びなどの語で教育を語る気運が近年高まっているが、本来的にこうしたキー・ワードは画一的に対象を分析する理論化を導くものではない。なぜなら、これらの語は現象学の発想で教育をとらえ直そうとする潮流のなかで生じ、現象学は、対象を観ることは観る者自身の姿勢と切り離せない営みであることを明らかにしているからである。だからと言ってこのことをネガティブな事実として受け止める必要もない。語るという営みに伴う意味生成の可能性が見いだされて他者との間に意味生成の場を自覚的に開き続けていくことこそが肝要なのだという願望が開かれる。そうした意味生成としての教育研究が実現されることを期して、このラウンドテーブルを企画する。

最初に大学教員である瀬戸が自ら実践してきた教員養成を振り返って語る。それを受けて語る赤木は瀬戸の元で学部と大学院を過ごし、小学校教員として勤務して2年目。今年度は第1学年を担当し、ことばと身体とが切り離せないことを実感する日々を過ごしている。瀬戸と赤木とは、研究と実践は別々のことではなくひとつの全体の二側面であるという見解を共有する。ふたりの語りに、ふたりとは初対面の小川と新井がそれぞれの関心から言及し、集られた方々への仲介者として、話題を広げていく。こうした流れであるので、会場には、理論を収穫して勉強、ではなく、あくまでもそれぞれの視点から意味生成を担う姿勢でお集まりいただきたい。

日本教育方法学会刊行書籍

教育方法9.	現代訓育理論の探究	1977	(2,205円)
教育方法12.	学級教授論と総合学習の探究	1982	(2,730円)
教育方法14.	子どもの人間的自立と授業実践	1985	(2,940円)
教育方法16.	個性の開発と教師の力量	1987	(2,520円)
教育方法17.	教育方法を問い直す	1988	(3,045円)
教育方法18.	新教育課程と人間的感性の育成	1989	(2,039円)
教育方法19.	知育・徳育の構想と生活科の指導	1990	(1,794円)
教育方法20.	学校文化の創造と教育技術の課題	1991	(1,794円)
教育方法22.	いま、授業成立の原則を問う	1993	(1,896円)
教育方法23.	新しい学力観と教育実践	1994	(1,896円)
教育方法25.	戦後50年、いま学校を問い直す	1996	(1,998円)
教育方法26.	新しい学校像と教育改革	1997	(1,890円)
教育方法27.	新しい学校・学級づくりと授業改革	1998	(2,058円)
教育方法28.	教育課程・方法の改革 —新学習指導要領の教育方法学的検討—	1999	(1,953円) (価格は税込)

〒170-0005

東京都豊島区南大塚2-39-5

明治図書

TEL.(編)03-3946-3151・3152

TEL.(営)048-256-1175

『教育方法』は、大会当日、会場にて大会割引価格にて販売いたします。

この機会に多数の方々のご購入をお願いいたします。

『教育方法29』より、図書文化から出版されることになりました。

教育方法29.	総合的学習と教科の基礎・基本	2000	(1,890円)
教育方法30.	学力観の再検討と授業改革	2001	(1,890円)
教育方法31.	子ども参加の学校と授業改革	2002	(1,995円)
教育方法32.	新しい学びと知の創造	2003	(1,995円) (価格は税込)

最新刊・教育方法33. 『確かな学力と指導法の探究』

〈内 容〉

- I. 新しい学びと学力と質の向上
- II. 現代学校における指導のあり方
- III. 教育方法学の研究動向

〒112-0012

東京都文京区大塚1-4-5

図書文化

TEL. 03-3943-2516